

北九州市 ヒアリングメモ

見学日時：2016年8月22日(月)

先方：企画調整局 岩田様，小田様

参加者：山田，金子，高瀬，宮崎，古川

■現在までの流れ

- ・ 2015年の9月頃から活動を始めて、まだ1年たっていないくらい。他の街よりも課題が早く出てきて、早く取り組んでいた。とくに福岡都市圏に人口が流出してしまう問題などが際立っていたので、新しいものがあつた方が良いのではないかと、CCRCに活動を移した。また、医療・福祉・介護以外にも取り込むため、さらに移住へと変更。年齢や収入、居住地に関係ない街全体で取り組めるようにした。
- ・ 移住・定住に関する問題についてはそれぞれ活動していた。
- ・ 政令指定都市であるものの、特別人口が多いわけではなく、特徴があるわけでもない。
- ・ 定住・移住を行うに当たって、どうして福岡の方に人口が流れてしまうのか考えていたが、真新しいものができたり、レジャー施設、観光地化していたりして、集客力があるのではないかと思った。一方で、九州にはないが、住んでみるといいところも見えてくる、良くも悪くもないところと言えるのではないだろうか。

■日本版 CCRC に対する考え方

- ・ 移住者向けの制度の為、ニーズが高くあり、比較的大きな都市でないと対応できない。元気なうちはどのように生活しているのか、提供者に余力が残されているかなど、選択性がそれぞれ必要になる。
- ・ 医療の入居率が比較的高いことから、後方病床扱いになっているのではないだろうか。また、サ付きは福祉側から住宅のサポート行わなくてはならないので、運営が難しい面がある。施設はベースとして医療や福祉があるので移住とは言えない。

■活動の実態

- ・ 1～2年住めば、その人は市民。高齢者のUターンはあまりスポットが当たっていない。というのも、生まれは北九州でも、都心に40年ほどいると、そこに保険のお金は落としていて、



戻ってこられても負担だけしなくてはいけないから。

- ・ 28 年度から年齢層を拡大，民間企業と連携して活動する。企業側から応援団体として働きかけてもらい，現在 30 社ほど集まっている。種別は不動産，ホテル事業など，活動にムラが出ないように選定している。

■お試し居住について

- ・ お試し居住の方では，1 組が決定している。来たいと言ってくれた人に合わせたニーズを移住コーディネーターが提供する。場所は NPO の生涯現役夢追塾に協力してもらい，スマートコミュニティのショールームを利用。NPO の真横にあったこと，生活環境が静かでよかったことなどから決定した。ここでは利用料を払ってもらい，それぞれのニーズに対応する。

■移住への考え

- ・ 仕事をしたい 40 代 50 代は多い。シニアだからこそ住宅，仕事をどうするか，という問題がある。また，60 代になっても働きたい人はいる。それにも対応できるような仕組み作りを行わなくてはならない。
- ・ 移住当初に考えるニーズと実際に住んでみてでてくるニーズは異なることも問題だが，北九州市にはあらかた施設(病院，商業，交通など)はそろっているので，住む場所をきちんと検討することで長期的に対応できるのではないか。また，早めに住み替えてもらうことで，コミュニティにも参加しやすくなる。

■連携について

- ・ 市域に人を増やすため，民間にも手を貸してもらって，汎用性を高め，人口を増やしていこうと考えている。住まいをベースに声をかけていき，周辺(福祉や医療)とも連携が取れるようにする。
- ・ 医療と介護では，どうすればシニアにも住んでもらえるかが問題。大学と連携するのか，スポーツ施設を作るのか，市民センターを活用するか。そこにすんだらどういう生活ができるか，ということを考えてエリア作りを行っていかなければならない。
- ・ 11 月に選定された事業はハード面に対してではなくソフト面に対する補助で，住宅も含めハードをもっと整備しなければならない。

■エリア作りについて

- ・ エリア内で完結してはいけないのは当たり前な一方で，最適モデルを集めたものでも非効率になってしまうのでダメ。
- ・ 元気なうちは戸建てが欲しい，というのは当たり前のニーズでそれに対応していると一般化してしまうので強みにならない。なので今ある資源を使いながらエリア作りを進めなくては

いけない。

- 進めていくにあたり，移住側と事業側，公的機関がどうかかわるかが重要になる。仕事先の橋渡し役をモデル化する。

■現在の課題と対する取り組み

- まだ働ける人をマッチングして住んでもらうという方法を取りたいが，一方でアウトプット先，出向先がないので人件費がかかるだけになってしまう面もある。
- 介護離職が多いという問題。親が田舎にいるからという理由で帰ってしまう。特に男性の離職率が高い。会社にはいると，田舎では自分で面倒を見なくてはならないので。介護をしながら働き続けるのが難しい。
- ショートステイなどをうまく組み合わせた働き方ができるのではないか。実際に，北九州市でも施設に入るのは難しい。特に要介護2とか認知症高齢者は施設の受け入れが拒まれることがあり，行き場がない状況。

さいごに 物価も安く，大体の施設が整っている北九州市だからこそ，特別でない普通のモデル作りができると思う。それは，地方都市の多くに波及する可能性のあるモデルであると考えてる。